

平成 30 年度学校経営計画

平成 30 年度～平成 32 年度

校番	11	学校名	広島県立福山誠之館高等学校	校長氏名	古前 勝教	全日制	本校
----	----	-----	---------------	------	-------	-----	----

1 ミッション(地域社会における自校の使命)

開校以来の「文武一致」の精神のもと、知・徳・体の調和のとれた社会に有為な人材を育成する。

2 ビジョン(使命の追求を通じて実現しようとする自校の将来像)

県立高校のリーダー校として、生徒の自主性・自律性を高めるとともに、人を愛する心を育成することにより、広く地域・県民から信頼される学校

3 目指す生徒像

広く学び、深く考え、人を愛し、夢に立ち向かえる生徒

4 環境分析

(1) 生徒の主体性・自律性を高め、探究的な学びの基本的スタイルを身に付けさせる学校

組織的な教科指導・進路指導体制の確立	<p>○「思考力・判断力・表現力」を身に付けさせることが急務である。大学入試センター試験や模擬試験の結果分析によると、「知っている」レベルの問題に比べて「わかるレベル」の問題の得点率が低い。ましてや「使える」レベルの問題には多くの生徒が戸惑いすら感じている状況にある。また、「表現力」とりわけ記述力が身に付いていない状況である。</p> <p>○進路指導、学習指導の仕組み、体制はほぼ整っている状況下で、今後は、新大学入試に対応できる教科指導の充実を図る必要がある。</p> <p>○基礎的な学習内容が身に付かないことを理由に学習塾に通う生徒がいる状況は、公教育として学校が責任を十分に果たすことができていない面を映し出している。「到達度シラバス」の完全な運用と補完指導を徹底するとともに、習熟度別指導を厳密に運用する必要がある。</p> <p>○生徒の可能性を最大限に伸ばし、最難関・難関大学や広島大学・岡山大学を多くの生徒が目指し、合格する学力を確実に身に付けさせる必要がある。</p>
教科指導力の向上	<p>○教科内容に関する学びの深さ(学力・学習の質)について、「知っている」レベルの課題、「わかる」レベルの課題を超えて、「使える」レベルの課題に取り組ませる授業づくりを進める必要がある。そのため「逆向き設計の理論による単元計画」、「承認できる証拠」としてのパフォーマンス課題の作成、評価方法としてのルーブリックの作成等に取り組む必要がある。</p> <p>○研究協力校である神戸大学附属中等教育学校との実践交流を通して、「教科・科目の本質」「単元の本質」を明確にした授業づくりを推進する必要がある。</p> <p>○「資質・能力」の育成に焦点を当てた「授業づくりを進めるため、「カリキュラムマップ」に沿って単元ベースの授業づくりを全教科において実践する必要がある。</p> <p>○授業の転換を確実なものとする上で、既存の「到達度シラバス」を厳密に運用するとともに、定期試験の実施方法、評定の方法等について抜本的な改革が必要である。</p>
姉妹校を中心とする国際交流の推進	<p>ノルウェー、カナダなどの姉妹校と定常的な交流をすすめ、長期・短期の交換留学制度の定着を図り、その内容を全生徒に還元することで、本校生徒全員がグローバル意識を高めることが大切である。</p>
主体的・自律的な学習態度の育成	<p>○「自分で計画を立てて実行する」、「求められたこと以上のことをする」など、主体的・自律的に学習に取り組む生徒を育成する必要がある。</p> <p>○「誠之館学びのスタイル」「誠之館学びのノート」等のツールを活用して、入学の早い段階から計画的に学習に取り組む習慣形成が不可欠である。</p> <p>○「主体的に学びに向き合う態度」を育むために、「学習に見通しを持たせること」と「自らの学びを振り返ること」を柱に単元設計を行う必要がある。</p>

探究的な学びの基本的スキルを身に付けた生徒の育成	<p>○「誠之ナビ」、「誠之ゼミ」(「総合的な学習の時間」)において課題研究を行ってきており、生徒に探究的な学びに向かわせる取組を展開している。生徒を探究的な学びに向かわせるためには、「誠之ナビ」「誠之ゼミ」の指導の充実を一層図る必要がある。</p> <p>○平成27年度に「探究コアスクール」の指定を受けて以後、「誠之館学びの変革プロジェクト」を立ち上げ、「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」を核として、教科とリンクさせた探究的カリキュラムを作成した。神戸大学附属中等教育学校等の実践をベースに本校のカリキュラムを洗練し、精度を高めながら確実に展開する必要がある。</p>
--------------------------	---

(2) 人を愛する心を育成する学校

人を愛する心の育成	<p>平成26年度に「広く学び、深く考え、人を愛し、夢に立ち向かえる生徒」を「目指す生徒像」として決定した。「人を愛し」については、学校教育のあらゆる場面で、「人を思いやり、相手の立場に立って考え、行動する」「人がやりたがらないことや人が気付かないことをすすんでやる」心を育て、行動できるようにするために、掃除に徹底的に取り組ませる必要がある。</p>
-----------	--

(3) 地域・県民から信頼される学校

保護者への情報発信、保護者の行事への参加体制	<p>平成23年度から、地域別学校説明会(府中、尾道)を実施している。平成28年度から小学校の児童・保護者対象のオープンスクールを実施した。オープンスクールや塾対象の説明会を通して、本校の良さを知り、本校で学びたい児童・生徒の育成を強化する。HPの充実や様々な媒体を通じて、学校での様子や進路に関する情報を提供し、さらに本校の教育活動の理解を図る必要がある。</p>
地域への情報発信	<p>各種行事の案内や学校新聞を定期的に配付することで本校の理解を図る必要がある。PTAや同窓会、小・中学校、市教育委員会、他の高校などとの連携を一層深め、本校の教育活動の理解に努める必要がある。</p>

5 目標の設定

学校経営目標								
達成目標	評価指標	実績値	目標値			担当部等		
		平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度			
1 生徒の主体性・自律性を高め、探究的な学びの基本的スタイルを身に付けさせる学校								
既定の部活休養日をすべての部活動が実施し、生徒の主体的・自律的に生活する態度を育成する。	例外日を除く、休養日の実施率	新規	90%	95%	100%	生徒指導		
	組織的な進路指導体制の確立	難関国立大学合格者数(現役)(人) (国立大学医学部医学科含)	21人	30人	30人	30人	進路	
		広島・岡山大学合格者数(現役)(人)	38人	60人	65人	65人	進路	
		模擬試験偏差値70以上の生徒の割合(%) (1年進研1月, 2年2月)	1年	33%	5%	6%	7%	進路教科
			2年	14%	9%	10%	11%	進路教科
	模擬試験偏差値60以上の生徒の割合(%) (1年進研1月, 2年2月)	1年	35%	60%	60%	60%	進路教科	
2年		57.8%	60%	63%	65%	進路教科		

高い志を持ち、それを実現できる生徒の育成	2年次生の第一志望宣言における最難関・難関大学の志望率	23%	30%	30%	30%	進路 学年会
	2年次生の第一志望宣言における広島・岡山大学の志望率	43%	40%	45%	45%	進路 学年会
国際交流の推進	インターネットなどを利用した姉妹校等との国際交流の回数	20回	20回	20回	20回	総務
2 人を愛する心を育成する学校						
規範意識の醸成	年間4日以上遅刻者	83%	6%	5%	5%	生徒 指導
生徒会活動等の活性化	生徒会主導による活動参加生徒数(ボランティア活動等)	314人	450人	500人	500人	生徒 指導
	校内美化活動の実施(PTA活動への参加数)	479人	550人	600人	600人	生徒 指導
	県総体参加者数	198人	200人	200人	200人	生徒 指導
生徒個人で「人を思いやる」という目標を設定し、その目標を達成しようとする態度を身に付ける	生活目標・個人評価表の「他者を尊重し、思いやりのある言動がとれた」の評価が、○(良くてきた)であった生徒の割合(各学期、各学年の総計)	88%	90%	90%	90%	生徒 指導
美化意識を醸成し、安全で美しい学校づくりを実現する	①「学校評価アンケート」により、「清掃活動に主体的に取り組んでいる」と回答した生徒・教職員の割合 ②「校内は清掃が行き届いており、美しさが保たれている」と回答した保護者の割合 ③年間掃除点検の合格得点率	①91% ②96% ③86.4%	①②③ ともに 90%	①②③ ともに 90%	①②③ ともに 90%	保健
3 地域・県民から信頼される学校						
学校説明会の実施	オープンスクール参加生徒数	611人	650人	650人	650人	総務
	学校評価アンケートの満足度(%)	66.0%	70%	70%	70%	総務
働き方改革を踏まえた業務改善による生徒と向き合う時間の確保	時間超在校勤務 80 時間を超えるものの数の減少(学期の平均値を学期ごとに減少させる割合)	新規	5%	5%	5%	衛生委員 会

6 行動計画

学校経営目標			
達成目標	本年度行動計画	中期行動計画	担当部等
1 生徒の主体性・自律性を高め、探究的な学びの基本的スタイルを身に付けさせる学校			
①主体的な学習態度を身に付けた生徒の育成	<p>1 生徒の自主的な家庭学習と効果的な面談の実施 「学びのノート」を生徒各自が利用して、自主的・自律的な学習者になる。 クラス担任・教科担任等が適切な時期に適切な面接を行い具体的な指導を行う。</p> <p>2 「Core プログラム」「My プログラム」の5教科での実施。</p> <p>3 学習内容(予習・復習)の適切な指導 「学びのスタートアップ」で初期指導を行い、「学びのスタイル」で学びの型を確立させる。また、「学びのノート」を活用して生徒が自主的・自発的に家庭学習を行うよう指導する。</p> <p>4 「総合的な学習の時間」などの取組や成果などを、他の高校、大学、企業、福山市、NGO などと協議したり、発表したりする。</p>	<p>○「面談シラバス」に基づき個人面接や保護者懇談会において適切な指導を行う。面談内容の共有化を確立させる。</p> <p>○1年次生の段階で、予習・復習を中心とした学習習慣を確立させる。2年次には自分で選んだ発展的な演習、補強課題に計画的に取り組み、3年次では完全に自律的に学ばせる。</p> <p>○予習・復習を含めた生徒の学習時間を確保することを阻害するものの分析と改善に向けた指導を行う。</p>	進路 教務 学年
②組織的な進路指導体制の確立	<p>1 進路研修会の実施(1, 2年次検討会を含む) 新旧担任会での情報共有(面談シートの交換)</p> <p>2 教員の進路指導力を伸ばす。 ① 入試に関する情報共有を行う。 ② 進路指導に関する基本的な考え方の共有を図る。 ③ 入試問題研究を実施し、その成果に基づき合格判定能力を高める。</p> <p>3 「理数強靱化プロジェクト」の提言を継続的に指導に反映させる。</p> <p>4 「難関大学進学者育成プロジェクト」の提言をすべての教職員が理解し、学校全体で組織的に取り組む。</p> <p>5 新入試への対応を踏まえた、進路指導力をつける。 ①研究会等の成果を教科指導・進路指導に還元する。 ②記述力プロジェクトの提言をすべての教科で実践する。 ③教員の面接・小論文指導力をつける。</p> <p>6 「進路指導シラバス」「データ活用マニュアル」の活用 「進路指導シラバス」「データ活用マニュアル」に沿って手立てを確実に実行。</p> <p>7 「面談シラバス」の活用 ・各学年において「面談シラバス」を活用して指導のポイントとタイミングをとらえた面談指導を行う。</p>	<p>○教員の意識変革を行い、すべての生徒が自らの可能性を信じ、高い志を持って継続的に学習する風土を確立する。</p> <p>○スタディーサポートや模擬試験の分析に基づいて指導の在り方を検証し、適切な方策を打つ。</p> <p>○難関大学の入試傾向についての分析結果を生徒の指導に有効に生かす。</p> <p>○教職員が、3年間を見通して組織的に進路指導を行う体制を確立させる。</p> <p>○きめ細やかな面談によって生徒の学習環境を把握することで、進路目標の実現に向けて適切な指導・助言を行う。</p>	進路 教務 学年

<p>③教科指導力の向上</p>	<p>1 誠之館学びの変革プロジェクトの実施 2 授業研究の深化(一教科一実践) 3 生徒のための大学入試問題分析 4 授業評価アンケートの実施と活用 5 模試分析と分析結果の教材化 6 記述力模試、外部英語検定等の分析 7 完全な絶対評価に基づく評定 8 到達目標を明確にしたシラバスの作成、形成的評価及び補完指導の実施 9 「逆向き設計による授業づくり」、「カリキュラムマップ」の活用 10 習熟度別授業による、すべての生徒の学力の伸長 11 活用型・探究型の授業を実践している先進校、神戸大学附属中等教育学校と共同研究を通して、授業研究を充実 12 校内自主研究グループ「誠之館アクティブラーニングラボ(SALL)」の拡充</p>	<p>○すべての教員がこの授業を通じて身に付けさせたい力を明確にし、「どのように学ばせるか」の視点で授業を行う。 ○主体的に学習する態度の育成のための指導方法について研究し、本校独自の指導スタイルを確立する。 ○スタディーサポートや模擬試験の分析に基づいて教科指導の在り方を常に検証し、授業を実践する。 ○形成的評価と補完学習を効果的に行う。 ○思考力等を育成する授業を行い、難関大学二次試験に十分対応できる学力を身に付けさせる。</p>	<p>教務 教科 進路</p>
<p>④国際交流の推進</p>	<p>1 姉妹校2校と定常的な交流を行う。 2 短期・長期留学を確実に運用し、毎年交換留学を行う。 3 交流の成果を全生徒に還元し、国際感覚を育成し、グローバル社会に貢献しようとする人材を育成する。</p>	<p>○留学生と積極的に関わり、学校内外を問わず主体的に国際交流を行う生徒を育成する。 ○将来的に国際社会に貢献する人材としての基礎力を育成する。</p>	<p>総務 教務</p>
<p>2 人を愛する心を育成する学校</p>			
<p>①規範意識の醸成</p>	<p>1 時間を守る指導 (ア)生徒自身による学校生活の在り方の振り返り (イ)遅刻・欠席者の保護者との連携 2 校内ルール徹底、安全指導の強化</p>	<p>○生徒が中心となり、規範意識や自律心を涵養する取組を行う。</p>	<p>生徒指導</p>
<p>②リーダーシップ・道徳心の育成</p>	<p>1 生徒が小学校・中学校の児童生徒などに未来創造に向けての説明や共働的な取組への働きかけを行う。 2 生徒が行う行事を生徒に完全に任せるなどして、失敗やつまずきの体験からレジリエンスの育成を図る。 3 生徒会が主体となる学校行事の計画・運営(三大祭:文化祭・体育祭・合唱祭 等) 4 校内美化の徹底 5 挨拶の徹底 6 ボランティア活動の推進</p>	<p>○生徒会(各種委員会)が中心となって学校行事を計画し、実施する。 ○生徒に主体的に校内美化に取り組みさせる。(PTA主催の環境整備活動への積極的な参加及び全員清掃と校内清掃活動の実施) ○教職員全員が、校内外を問わず、正しい挨拶のできる生徒の育成に取り組む。 ○生徒がボランティア活動を行う風土を確立する。</p>	<p>教務 生徒会 保健</p>
<p>③生徒会活動の充実</p>	<p>1 生徒会の主体的活動の実施 2 「文武一致」の具現化 3 近隣高校の生徒会執行部との相互交流</p>	<p>○部活動に90%以上の生徒が加入し、自主的な活動をすすめて、県大会のみならず、中国大会以上にも出場するクラブを増やす。</p>	<p>生徒会</p>

<p>④生徒個人で目標を設定し、その目標を達成しようとする態度を身に付ける。</p>	<p>1 生徒会を中心とした、生徒主導・生徒主体の生徒会活動の実施 2 遅刻や校則違反をした生徒などに対し、今後の改善意欲を促す指導をするとともに、内容ある生徒会行事の企画や、生徒会・ボランティア愛好会を中心とした活動の状況を様々な場面で報告するなど、他の生徒に参加を呼びかけ生徒に達成感を感じさせる取組</p>	<p>○「生き方なり方」を強く意識させ、集団の一員として取るべき適切な行動、他者に対する思いやりのある行動、言葉遣いなどに対してすべての教員がより厳格な姿勢で指導する。</p>	<p>生徒指導</p>
<p>⑤美化意識を醸成し、安全で美しい学校づくりを実現する。</p>	<p>1 明示している掃除の方法で教職員・生徒全員で取り組む。 2 「誠之館 清掃 10 箇条」にそって全教職員で掃除の仕方を指導する。 3 掃除を通して「人を思いやり相手の立場に立って行動する」「人がやりたがらないことや気付かないことを率先してする」心を常に意識しながら清掃を行う。 4 環境美化委員が点検項目を明確にし、掃除点検を行い、清掃状況を評価し、改善を図る。</p>	<p>○生徒・教職員全員が毎日時間いっぱい集中して清掃を行う。 ○学校周辺及び校内清掃活動を通して、クラスで協力して積極的に環境美化を行う。 ○掃除点検することで、清掃状況を把握し、よりきれいにすることを意識させる。</p>	<p>保健</p>
<p>3 地域・県民から信頼される学校</p>			
<p>①学校説明会の実施</p>	<p>1 学校が主催する地域別学校説明会の実施 2 オープンスクール等での生徒による学校紹介、案内等の実施 3 小学校児童・保護者対象学校説明会の実施（小学校との連携強化） 4 中学校校長対象学校説明会の実施</p>	<p>○職員全員が本校の目指す学校像を理解し、本校の良さを外部の人に理解してもらうことに取り組む。 ○本校に学ぶ生徒が母校に自信と誇りを持ち、伝統の継承者となるとともに、本校の良さをPRすることができるようにさせる。</p>	<p>総務</p>
<p>②保護者への情報発信保護者の学校行事への参加体制</p>	<p>1 HP の即時掲載・更新 2 学年通信・進路通信などの情報発信 3 学校行事の案内 4 PTA との連携による入試説明会・環境整備講演会の実施 5 各種行事におけるアンケートの実施</p>	<p>○学校の実施している教育活動への理解を深めるために、様々な情報を速やかに発信する。 ○行事等の案内にとどまらず、行事を通して育てたい生徒像の実現を図る。</p>	<p>学年 進路 総務 保健</p>
<p>③地域の学校への理解</p>	<p>1 HP の即時掲載・更新 2 定期的な学校通信の発行 3 本校への学校アンケートの実施、分析、地域への還元</p>	<p>○学校の行っている行事等、本校の教育活動をアピールする。 ○全教職員が、地域から信頼される学校づくりを意識して教育活動に取り組む。</p>	<p>総務</p>
<p>④働き方改革を踏まえた業務改善による生徒と向き合う時間の確保</p>	<p>1 生徒に真の学力をつけるための授業等指導方法の見直し 2 教員の日常的な働き方改革意識の向上 3 ショートスパンでの入退校記録記録による面談 4 分掌組織内での業務の見直し</p>	<p>○学校行事等の大規模な業務の見直し。 ○地域、生徒、保護者への部活動休養日など業務改善に係る取組への理解を求める。</p>	<p>衛生委員会</p>